

## 第3回 福岡市自転車活用推進計画検討委員会 議事要旨

■日時：令和7年2月14日（金）15：30～17：00

■場所：エルガーラホール7階 中ホール2

■出席者：＜委員＞

座長 松永 千晶（福岡女子大学 国際文理学部 環境科学科 准教授）

伊賀上恵子（公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長）

佐藤 信哉（株式会社VCドリームス 代表取締役、VC福岡 監督）

吉中美保子（西日本鉄道株式会社 まちづくり・交通・観光推進部長）

＜行政アドバイザー＞

荒木 元子（国土交通省 九州地方整備局 福岡国道事務所 交通対策課専門調査官）

栈 洋平（福岡県警察本部 交通部 交通規制係長）

権田 昌也（福岡県警察本部 交通部 交通企画係長）

松岡 淳（福岡市 住宅都市局 都市計画部長）

鷺頭 史典（福岡市 市民局 生活安全部長）

＜事務局＞

福岡市 道路下水道局 管理部 自転車課

■議事内容

1. 開会の挨拶

2. 議事

（1）策定までのスケジュールについて

（2）上位計画や関連計画の検討状況について

（3）第2回委員会の振り返りについて

（4）福岡市自転車活用推進計画（原案）について

3. 閉会の挨拶

## 議事概要

○議事について事務局より説明し、意見交換。

## ■主な意見（◎座長 ○委員 □行政アドバイザー △事務局）

### 議事（１）策定までのスケジュールについて

意見なし

### 議事（２）上位計画や関連計画の検討状況について

意見なし

### 議事（３）第２回委員会の振り返りについて

意見なし

### 議事（４）福岡市自転車活用推進計画（原案）について

#### 【第０章について】

◎第０章というのを付けていただいたことは、市民の方にも周知していただくというところで非常にいい取り組みだと思うが、多くの方に見ていただけるような周知の仕方もご検討いただきたい。

第０章は子ども、中学生や高校生も見てもらった方がいいかと思う。マナー等も理解してもらいたい部分もあると思うため、言葉が難し過ぎないように、小学生の高学年でもある程度理解できるような表現をご検討いただきたい。

△若い世代は自転車の利用が多いということもあるため、言葉についてはなるべく伝わりやすい柔らかい表現にしているつもりでしたが、いただいたご意見を参考に最終案の作成に取り組んでいきたい。

○「ルールを守ろう」の項目は厳選されたと思うが、ボリュームが多いと感じた。全部載せてもいいとは思いますが、もう少し見せ方の工夫をした方が良いのではないか。

△内容については、見せ方等も含めて検討したい。

□「ルールを守ろう」の歩車分離の横断ルールを案として掲載しているが、基本的な交差点における横断方法や、利用者が接しやすい内容を掲載した方が良いのではないか。

△歩車分離としたのは、歩車分離の信号で自転車は原則車両の信号に従うということを知らない利用者が多いという観点から掲載している。いただいたご意見を参考に考えたい。

◎14 ページの「地球に優しい」で、おそらく身近な能古島やアイランドシティの約３倍の面積が全て森林だった場合の吸収量だと思うが、これが多いのか少ないのかピンとこない。

△市民に身近な場所で広さをイメージしやすいところとして能古島とアイランドシティを挙げている。

◎能古島やアイランドシティの 3 倍の広さであり、福岡市で身近なもの、例えば何区と同じというようなものがあるのでは。

△もう少し広ければ中央区と同じくらいだが、およそ中央区の 8 割くらい。いただいたご意見を参考に考えたい。

## 【「はしる」について】

○街なかに青いラインが増え、サイクリストがこの街から認められているという印象が実感としてある。それが初心者の方の安心感にもなり、福岡市がサイクリング文化を認めている、推進している象徴でもあり、非常に喜ばしいことだと思う。

資料 26 ページ目の逆走禁止の表示について、福岡は他都市に比べて逆走が多い印象はない。逆走禁止や駐車禁止のポールがどこに立っているかはわからないが、サイクリストの邪魔にならないかと心配になった。これは専門家からの確認を受けてこのように設置されているのか。

△資料の写真がわかりづらくなっているが、歩道と車道の間縁石の上に設置している。実際自転車で走った実感としても、支障にならないような所に設置されている。

○縁石であれば問題ないと思う。

○電動キックボードも自転車レーンを走ると思うが、共存しなければならないため、それも考えておかないと自転車の安全性が守られないと思う。新しいモビリティへの配慮、対策、自転車との共存というのは、この計画の中のどこかに書くのか。

△基本的には自転車活用推進計画では自転車を取り扱っているが、キックボードについても基本的なルールや守ってほしい部分に関して掲載する予定である。

通行場所について、歩道通行に違いはあるが、基本的には自転車と同じところを走ることになるため、限られた道路幅員の中で自転車や電動キックボードがなるべく有効幅員を広く確保しながら通行できるような通行空間を考えていきたい。

◎電動キックボードについてはどちらで担当されているのか。道路整備懇談会でもそのような話は出なかったように思う。

△よく聞くのは安全マナーをきちんと守ってほしいという啓発の部分でご意見がある。

道路整備に関しては、基本的に自転車と同じところを走るため、より安全な通行空間を形成するということ、対応していく話かと思う。

◎キックボード側もどうしていいかわからないというか、同じ空間を使っているため、その辺りを検討いただければいいかなと思う。

## 【「とめる」について】

○33 ページの施策8にある新基準原動機付自転車について、原付免許が125 ccまで広がるということで、要は125 ccまでの例えば100 cc等の原付が駐輪できる駐輪場が増えるという認識でいいのか。

△原付の規格の見直しがあり、125 ccでもその出力を抑制した形であれば、従来の原付と同じ免許で運転ができるようになる。原付として同様に取り扱っていくことを考えている。

50 ccまでの規格の原付の生産が今後できなくなることが背景にあるようだ。

## 【「まもる」について】

意見なし

## 【「いかす」について】

○観光としても、Fukuoka East&West Coast はニーズがかなり高い。公共交通だけでは補えないところに自転車の需要というのは相当数ある。

福岡・糸島ルートと直方・宗像・志賀島ルートは、市内に含まれているということだが、矢羽根などの通行空間整備が必要かと思うが、その辺りはどうなっているのか。

△福岡・糸島ルートと直方・宗像・志賀島ルートは、一部の区間で整備を進めているが、新計画においても可能な箇所から交通管理者と協議、調整しながら矢羽根等の整備を考えていきたい。

○我々はサイクルチームで、ツール・ド・九州に乗じて、いろいろな活動を広げているが、昨年ツール・ド・九州が開催された岡垣町で、そのレガシーを生かした取り組みとして、サイクリングルートを利用して、チームのトレーニング拠点としている。そこには福岡県が設置したサイクリングターミナルが設置されており、そこで今年の1月にクリーンイベントを開催した。3月には岡崎町の観光協会が主催するトレジャーハントツーリングというイベントにも参加させていただく。

昨年、我々の方で小規模のイベントを開催しており、参加者50名程度の小さなイベントだったが、今年岡崎町でサイクリングイベントの開催に予算を作っていただいた。競技チームが地域振興に乗り出して地域と連携していくような取り組みが一つ生まれた。

糸島の方のルートでは、サイクリングのイベントを小規模ながら開催しており、昨年全部で6回開催し、そのうち糸島エリアで3回ほど開催させていただいた。

九州大学に近接する施設である、いとLab+にて、そこをサイクルの拠点としてサイクリングイベントを開催した。

福岡市の市民局生活安全部防犯・交通安全課の主催で取り組んでいる子ども向けの自転車教室も複合したイベントとして開催が実現でき、今年も同様に6月に開催する予定。

我々は競技チームだが、サイクリングを通じて福岡の魅力を発信できること、企業の支援を受けながら地域活性化を図っていけることが非常にいいことだと考えている。

△広域サイクリングルートが走りやすいように矢羽根等の整備を考えているところもあり、サイクリスト向けの施設を整備しながら、サイクリストがより親しめるような環境をつくっていきたい。

◎44 ページに自転車を活用した健康づくりとあるが、Fitness City プロジェクトとの連携はあるのか。

△直接、Fitness City プロジェクトと関連があるわけではないが、自転車は、健康増進効果があるため、活用していきましょうというところで記載している。

○健康づくりに関して、今は企業が社員の方々の健康を考えていると思うが、そういった企業に訴えかけていくような施策、取組みなのか。

△具体的なことは予定していないが、福岡県の取組みとして自転車通勤を推進していこうという動きがあることは把握している。

○今は企業が比較的自転車通勤を推奨しているものなのか。

△民間企業の通勤事情は確認できていない。市役所では公共交通機関で通勤すると、手当としてバス運賃や地下鉄運賃の支払いはあるが、通勤手当としてもらっているのに関わらず、それを使わずに自転車通勤をすると、これはペナルティの対象となるため、自転車通勤をする場合も届ける必要がある。自転車通勤が否定されているわけではないが、自転車で通勤してもインセンティブのようなものはない。

○45 ページのシェアサイクルについて、市民への啓発は様々なところで取り組まれていると思うが、来街者や観光客についてもシェアサイクルの利用があるため、そこに向けた啓発を事業者と連携して進めていただきたい。

△事業者においても、英語のほか韓国語や中国語での利用ガイドを作成し、啓発する取り組みを進めているところであり、いただいたご意見をもとに、事業者にも働きかけ、より良い啓発となるように取り組んでいきたい。

□今回「はしる」「とめる」「まもる」「いかす」というキーワードで、最近のトピックやトレンドを含めてすごくよくまとめられていると思う。特に「とめる」の部分にて、路上駐輪場をはっきりと順次撤去していくと方針を出したのは、素晴らしいことだと思う。

この原案に基づいて、成果指標や活動指標というのもこの原案の中に盛り込んでいくのか。

△今回各施策の具体的な内容を説明したが、本日いただいた意見や施策も踏まえて、今後、検討し、計画に盛り込んでいく予定。

□45 ページのシェアサイクルの件で、公募があったと思うが、引き続きチャリチャリが行うのか。

△今年度公募を行い、令和7年度以降も「福岡シェアサイクル事業」の事業者としてチャリチャリに決定した。

□「まもる」のヘルメットの着用について、来年度から県立学校はヘルメット着用が義務化になる。高校生のヘルメット着用の定着化がすすめば、着用率が低い成人や高齢者への流れとなってくる。チャリチャリは成人の利用者が多いため、チャリチャリに対して、ヘルメット着用への取組について強く働きかけをお願いしたい。